

■発行元 神戸学院大学  
地域研究センター明石ハウス  
■住所 〒673-0871  
明石市大蔵八幡町5-23  
■電話 078-995-5414  
078-974-4232(事務局)  
■mail akashi-h@human.  
kobegakuin.ac.jp

# 神戸学院大学地域研究センター 明石ハウス通信

## 明石ハウス年表 [2] 2015-2018

神戸学院大学地域研究センターは、2002年の開設以来、明石市・大蔵地域の伝統行事や文化資源の調査などを、地域のみなさまのご協力のもとに行ってきました。2012年7月には、明石市大蔵八幡町に活動拠点(現明石ハウス)をお借りしました。今回も前号に引き続き、この場所で行ってきた様々な活動を、年表でご紹介いたします。

2015	10.21	大蔵谷ヒューマンサイエンスカフェ(以下HSC) 『こどもたちはどのように学習しているのか? -狩 猟採集民の研究から考える』
	11.25	HSC『早世の天才詩人ジョン・キーツの話』
	12.23	HSC『島根県雲南市におけるまちづくりの取り組み から学ぶものは?』『大蔵谷財産区について』
2016	1.27	HSC『日本の暦の数理』
	2.12	HSC『パラオの子どもたちの日本植民地経験』
	6.22	HSC『イスラムの合理性』
	7.28	HSC『あのころの海岸風景 -大蔵地域のくらしと海 岸線の変化から』
	10.20	HSC『古民家は本当に住みにくい? -室内熱環境 と住まい方から考える』
	11.9	HSC『企業の森の取り組みと地域社会』
2017	1.11	HSC『やる気とか元気が出る「えんぴつポスター」 の話』
	2.22	HSC『今、作られる音楽』
	6.14	HSC『男女の話し方の違いはなぜ生じるのか』
	8.2	HSC『明治大正時代の映画館』
	11.1	HSC『グローバル・ヒストリーで読み解く世界史』
11.29	HSC『神になった人麻呂 -鎌倉・室町時代の和歌 秘伝』	
2018	1.29	HSC in 神戸学院大学『大学生における演劇教育 の効果とファシリテーターの役割』 成果発表「大学生における演劇教育の効果」、シンポジ ウム「日本・中国・台湾における演劇教育の状況」、創作 演劇「アタシノアカシ① -新年明石伝説物語」
	2.21	HSC『近代劇と女優 -貞奴と須磨子を手かがりに』

約1年半ぶりの  
イベント開催に  
もかかわらず、  
多くの方に  
お越しいただ  
きました。



学生の卒業論文の中間報告に、  
地域のみなさまから多くのご助  
言を頂戴しました。



教員が作曲した音楽を、学生が演奏  
しました。



三本立ての企画! 第三部では、学生  
が創作演劇の上演に挑戦しました。





# 大蔵谷ヒューマンサイエンスカフェ(2015-)

2012年度から2014年度にかけて、明石ハウスでは「大蔵谷なう。」と名付けたプロジェクトとして、講演会や勉強会などを開催していました。この取り組みが2014年3月に終了した後、明石ハウスは約1年半にわたって、活動を休止します。

そして2015年、「大蔵谷なう。」の後継企画として始まったのが、「人文学」の語を冠した「大蔵谷ヒューマンサイエンスカフェ」です。コロナ禍のため、明石ハウスでの開催は休止中ですが、企画は継続しています。



『企業の森の取り組みと地域社会』  
(2016年11月)



『男女の話し方の違いはなぜ生じるのか』  
(2017年6月)

地域研究センターは神戸学院大学人文学部の付設機関です。人文学部の教員の専門分野は、文系理系の境を超えて、多岐にわたります。大蔵谷ヒューマンサイエンスカフェでは、それぞれの研究成果を活かして、講演会やワークショップを行いました。神戸学院大学の教員だけではなく、外部から招聘した専門家や、時には学生が、講師やファシリテーターを務めることもありました。

大変ありがたいことに、毎回、近隣地域から多くの方にご参加いただきました。時には明石ハウスからあふれ出しそうなほどの盛況ぶりでした。

## 大蔵谷ヒューマン サイエンスカフェ 番外編 あかし丸と 松平信之

明石藩のお殿さまは、初代の小笠原忠真から幕末の松平直致まで全部で十七人。そのうち

もつとも有名なのは、やはり江戸前期の松平信之(在任一六五九―一七九九年)でしょうか。林崎掘割、伊川谷掘割を整備し、新田開発につとめたことで知られます。

信之は柿本神社に石碑を建て、休天神の由緒記をつくらせるなど、領内の史跡顕彰にも熱心しました。歴史や文学にも深い関心を抱いていたのです。連歌や漢詩をはじめ、加藤定彦氏によれば「松葉」という号で俳諧までた

しなんでいたのだとか。数はさほど多くありませんが、『俳椽一字幽蘭集』という本に信之の作品がいくつか残されています。その巻中にも素晴らしい句がありました。前書きは「あかし丸といふ舟にのりて浦あそびにまかりて」。浜遊びにいったとき詠

んだものらしい。「明石住松葉」と作者名が記されています。

月の舟これほのくや

あかし丸

「ほのぼのと差しこむ光に明るく照らされたあかし丸は、まさしく「月の舟」だなあ」。

『万葉』のいにしえ、柿本人麻呂は空を渡る月を舟にたとえました。「天の海に雲の波立ち月の舟星の林に漕ぎ隠る見ゆ」。「月の舟」はこれを踏まえた表現です。月のように輝く、月見の舟。

一方、「ほのくやあかし」は『古今和歌集』に収められた伝人麻呂歌「ほのぼのと明石の浦の朝霧に島隠れゆく舟をしぞ思ふ」が典拠。「あかし」には「明し」が掛かっています。

信之が林鷲峰という学者につくらせた明石八景の詩「赤石浦月」には

赤石の浦晴れて月舟に満ち、  
無双の光景 清遊を競ふ。

「海の上から月を眺めていると舟いっぱい光が差しこむ」という一節があります。発想がよく

似ていますから、もしかしたら鷲峰は「月の舟」の句を知っていたのかもしれない。あかし丸というずいぶん大雑把な舟の名も。

ちなみに『采邑私記』という古い地誌には次のような記事があります。

浜屋敷 城主の別館なり。

……源(松平)信之、増修營すと云ふ。

「明石城下には浜屋敷という藩主の別邸があり、信之の代に改修が行われた」。お殿さまはここからあかし丸に乗りこんで、月見に漕ぎだしたのかもしれないね。

(中村健史、神戸学院大学准教授)



西区伊川谷町漆山に残る松平信之の供養塔。「日向さん」という通称は、信之が日向守を称したことに由来。



# 教員紹介 中山 文 教授(中国文学)

## Q：研究について教えてください

中国には300近い地方劇がありますが、唯一女性だけで演じることを劇種の最大特徴とする「越劇」を研究しています。女性ばかりで演じることから、「中国の宝塚」と呼ばれ、カッコいい男役にファンが集まるのも同じです。しかしその優美な音楽と美しい演技の成立過程には性差別や職業差別と戦ってきた女優たちの苦難の歴史があります。これまでグリーンフェスティバルでも2度古典名作『梁山泊と祝英台』を上演しました。今後も中国の女性演劇「越劇」の魅力を発信していきたいと願っています。



2016年 越劇の上演

## Q：明石との関係について教えてください

中山ゼミでは2017年から3回生が「アタシノアカシ」を上演しています。学生が明石についての題材を探し、戯曲を書き、プロの劇作家にコメントをいただき、修正校を提出。全員の投票で上演作を選び、読み合わせ、キャスト決定、班別稽古、上演という流れです。これまでリーディングを含め30本の作品を上演してきました。コロナのせいでしばらく内部上演が続きましたが、今年は久しぶりにマナビホールに一般のお客様を入れて上演ができそうです。学生たちの演じる明石の物語を、どうぞお楽しみに！



2022年3月 ゼミの学生たちと

Youtube 連動企画

# くずし字 解読講座

### ▼踊り字

現在の日本語の表記では、「人々」「時々」のように漢字を繰り返す際に、記号「々」を使います。

一方、ひらがなやカタカナには、くり返し記号を用いられません。ですが、夏目漱石の『こころ』によって、ひらがなのくり返しを指示する記号「く」の存在自体は知っている、という方が多いのではないのでしょうか。

くずし字では、この「く」を大変よく使います。また、「二音目が濁る場合は、「く」に濁点を付けた「ぐ」が使われます。



か(可) り  
|| かり



た(多) だ  
|| たた

さらに、「さまざま」ところどころのような、複数の字をまとめてくり返すための記号もあります。ひらがなの「く」を長く伸ばしたような形の「く〜」です。これは、漢字の繰り返しにも用いられます。



|| くのく

このように、文字の繰り返しを指示する記号「々」「く」「〜」は、まとめて「踊り字」「畳字」と呼ばれています。

### ▼紛らわしい字

踊り字の「く〜」は、現在のひらがなの「く(字母:久)」や「し(字母:之)」と形がよく似ていますので、紛らわしく見えてしまいがちです。上から下に長く伸びる一本の線がある場合は、この三字が候補になります。

踊り字の「く〜」と「く」には、左側で屈折するという特徴があります。その上で、前の字の終わりから続けて書かれていけば、たいいてい場合は「く」です。線が一度途切れ、前の字の右隣から始まり、上半身が長く下半身が短ければ、踊り字の「く〜」です。



な(奈) く



か(可) ろく  
|| かるろく

対する「し」は、ほとんどの場合は屈折せずに下へと伸びます。



おほ(保) し

くずし字には、この類いの紛らわしい字形が大変多く、熟練者でも悩まされます。まずは、頻出の仮名の基本的な形を覚えた上で、小さな違いに気を配る必要があります。



# 明石ハウス NEWS

神戸学院大学 明石ハウス

検索

## 古い写真を探しています

もし大蔵谷の古い写真をお持ちでしたら、拝見させていただきませんか。差し支えなければ、そのコピーを取らせていただき、神戸学院大にデータをコレクションさせてください。その写真についての思い出や、ご存じのことをお話しただければ、なおさらありがたく存じます。

(とりわけ、大蔵海岸周辺の写真を探しております。)

## 創作演劇「アタシノアカシ」を学生が上演しました

1月17日、神戸学院大学有瀬キャンパス内のオーバルホールにて、「実践演習Ⅱ」を履修する2回生が、リーディング公演を行いました。これは例年、人文学部の中山ゼミ3回生が行ってきたプロジェクトです。明石についての題材を探し、台本を書き、プロの劇作家の指導の下、修正校を提出。全員の投票で上演作品3本を選び、全員で読み合わせ、キャスト決定、班別稽古という流れを経て、本番を迎えます。

演目は、『愚かきの末』、『明石焼に俺はなる』、『アタシノアカシ』の3本。普段の学生生活では眠っている発想力と表現力が、窓の向こうに広がる青空を背景に、この小さな舞台で炸裂しました。



『明石焼に俺はなる』の1シーン

## 「あかしの未来」について 矢嶋巖教授が講義しました

の講義を、矢嶋巖教授(人文地理学)が担当しました。地理学は、地域の過去から現在・将来を考える学問です。今回は、「あかしの未来」と題して、「過去に、あかしの未来をどう考えていたか」という疑問について取り上げました。

人口移動のデータや、明石市の新長期総合計画、過去の地域学習教材といった資料などをもとに、1980年頃に描かれていた「明石の未来」を分析し、合わせて将来への課題にも言及しました。

アスピア明石で2月13日に開催された「あかねヶ丘カレッジあかし地域学科」



小学校3・4年生向けの地域学習資料『わたしたちの明石改訂版』(1981年)

## Youtube「オンライン くずし字講座」配信中



Youtube  
明石ハウスチャンネル



地域研究センター  
Webサイト

コロナ禍で中断となりました「くずし字解説講座」を引き継ぐ企画として、「オンラインくずし字講座」をYoutube「明石ハウスチャンネル」にて公開しています。江戸時代出版された『源氏物語』の注釈書『湖月抄(こげつしょう)』の「明石」の巻を使ってくずし字を学ぶという企画です。4月にリニューアルしました地域研究センターのWebサイトでも、関連記事の掲載を行っています。

明石ハウスは、神戸学院大学が大蔵八幡町にお借りしている研究活動拠点です。建物(大塩邸、明治30年代後半築)は、明石市の都市景観形成重要建築物に指定されています。

山陽電鉄 大蔵谷駅 徒歩5分

